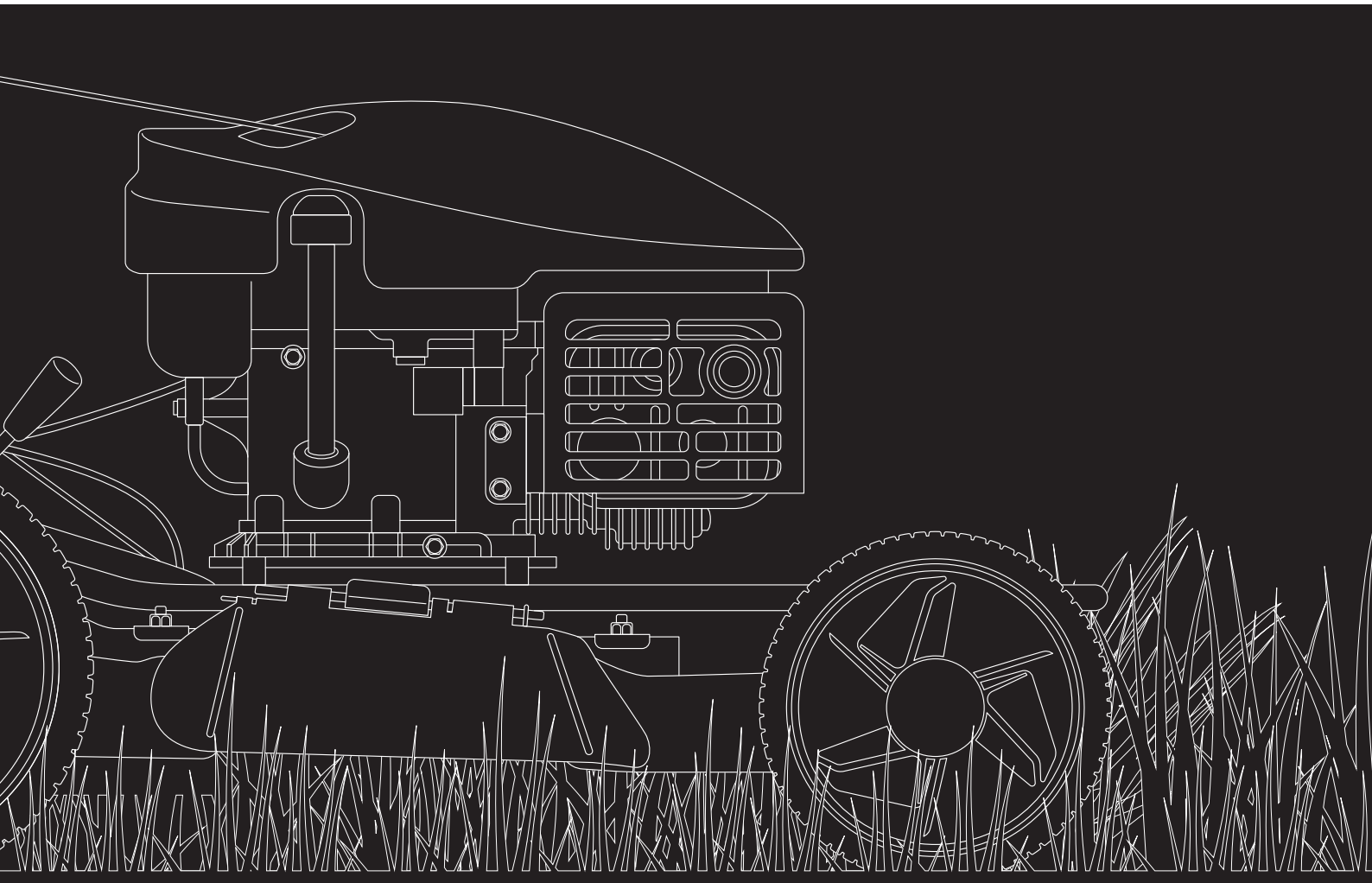
PLOW
Outdoor Power since1930

自走式草刈機 取扱説明書

WGC530 PLUS
OPERATING MANUAL



はじめに

この度は、当社の自走式草刈機WGC530 PLUSをご購入いただき厚く御礼申し上げます。
本製品がいつまでもお役に立ちますよう、取扱説明書を十分お読みの上、ご使用ください。
メーカーは、機械の用法、運転、点検、整備を直接監督指導することはできません。
正しく安全に作業を実施するのは、あなた自身です。
尚、この取扱説明書で述べていることの他にも作業によっては、
法令、条例、規則や保険条件などが適用されることがありますので十分ご注意ください。
また、お読みになった後は、必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。
尚、仕様変更などにより本製品と取扱説明書の内容が異なる場合もありますので
あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示がある警告ラベルは人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。なお、ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置に貼ってください。ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

注意表示に関して

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項に関して
次のように表示しています。

⚠ **危　険** ･･･ 注意事項を守らないと、死亡または重症を負うことになるものを示します。
⚠ **警　告** ･･･ 注意事項を守らないと、死亡または重症を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注　意** ･･･ 注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示しています。
重　要 ･･･ 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがあるものを示しています。
補　足 ･･･ その他、使用上役立つ補足説明を示します。

❗ 警告

- **エンジンオイルの補充は、オイル量が適正でないとエンジンが焼き付きをおこして故障します。エンジン焼き付きによる故障は保証対象外ですのでお気を付けください。**
- **<u>未組み立てでご購入</u>のお客様へ**
  出荷時には、<u>燃料</u>、<u>エンジンオイル</u>はそれぞれ<u>入っていません</u>。
  給油しないまま操作を行うと故障しますので、必ず給油を行ってください。

もくじ

⚠ 安全作業のために ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1　サービスと保証について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

2　各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

3　組み立て方法

　1　内容物の確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

　2　組み立て ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

4　操作の前に

　1　作業前の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

　2　燃料の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

　3　エンジンオイルの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

　4　エアクリーナーの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

　5　刈刃の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

　6　各部の締付けの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

5　注意事項

　1　安全な草刈り作業の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

6　操作方法

　1　エンジン始動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

　2　停止 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

　3　刈高の調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

　4　草刈りと速度調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

　5　サイド排出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

　6　デッキ内清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

7　メンテナンス

　1　重要性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

　2　定期点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

　3　各種メンテナンス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

　4　走行ワイヤーの調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

8　仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

パーツリスト・保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

⚠ 安全作業のために

1　安全５憲章

安全に作業するための基本です。作業前には復唱し守ってください。

❶ 作業開始前に始業点検を行います。

❷ 道路は走行しません。

❸ 路肩・崖地などを走行するときは、転落などに注意して走行します。

❹ 点検整備するときは、必ずエンジンを止めて行います。

❺ 補助者と共同作業をおこなうときは、声をかけあって合図をし、安全を確認します。

これ以外にもぜひ守って頂きたい注意事項を本項の”安全作業のために”でまとめて取り上げておりますので、よくお読みいただいて必ず守ってください。

2　安全作業のために、次のことがらを必ず守ってください。

本製品（以下、本機と呼びます）を使用する前に、必ずこの取扱説明書並びにエンジンの取扱説明書をよく読み、十分理解した上で安全な作業をしてください。

ちょっとした油断、不注意から事故を起こさないため、次の注意事項は特に注意して常に安全に作業してください。

作業をはじめる前に

1　安全な服装で！

服装はキチンとした、だぶつきの無い活動的なものを着用し、ヘルメット、安全靴や長靴を着用の上、作業に適した安全防護具を使用してください。

また、作業中の安全を考慮し、ラジオやはミュージックヘッドホンなどを使用しないでください。

2　必ず始業点検を！

本機を使用される前に必ず始業点検を実施してください。

❶ 各部の油量及び漏れの点検

❷ 各部の油脂状態

❸ 各部のボルト、ナットのゆるみ点検及び増し締め

❹ 各レバー類の動きが正常かどうかの点検

❺ 電気配線の点検など

※ 始業点検により不具合が発見された場合には、直ちに補修などの措置を講じてください。

絶対に、不具合・異常のある状態で使用してはいけません。

3　夜間走行・作業禁止!

夜間に走行・作業をしてはいけません。

4　作業者の制限!

1）次に該当する人は、本機の走行・作業に従事しないでください。

① 酒気を帯びた人　② 若年者　③ 未熟練者

④ 過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な走行・作業ができない人

⑤ 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供

2）走行・作業が続く場合には、健康に留意し、適当な休息と睡眠をとってください。

妊娠中の方は、作業に従事しないでください。

5　目的以外使用の禁止!

本機は草刈り以外の目的のために使用すると、機械の安全性が損なわれる場合があります。

危険ですから本機に人や動物を乗せてはいけません。

6　改造などの禁止!

本機の改造は危険ですので絶対に行ってはいけません。

故障の原因になるばかりか人身事故にもつながります。

7　機械を貸与する際の注意!

本機を他人に貸す場合は、運転・操作方法などをよく説明し取扱い説明書を手渡してください。また借りた人が作業前に取扱い説明書をよく読み、運転・操作方法を十分理解してから作業を開始するように指導してください。

8　密閉室内での作業の禁止・換気に注意!

エンジンは有毒ガスを発散しますので、密閉した室内又は換気の悪い場所で使用してはいけません。排気ガスが空気を汚してガス中毒をおこす危険があります。換気には十分注意してください。

9　火気厳禁!

燃料の補給時や潤滑油、オイルなどの給油・交換時は、エンジンを止めてください。また、火災や引火爆発の恐れがありますので、くわえタバコなどの火気は絶対に近づけてはいけません。こぼれた燃料や潤滑油が高温部で着火する可能性がある場合は、エンジンが冷えきってから補給してください。

10　ヤケドに注意!

エンジン運転中および停止直後のエンジン・マフラーなどは、高温のため触れるとヤケドの危険があります。点検・整備などをおこなう場合は、エンジンの各部が十分に冷えてから（停止後30分以上）作業してください。

作業中

1　人や物を乗せて走行禁止!

本機などに乗って運転したり、人や物を乗せて走行しないでください。転落などの傷害事故を起こす恐れがあります。

2　エンジン始動時の注意!

エンジン始動前に必ず次の点を確認してください。

○走行クラッチレバーが解放され走行が『OFF』（止まる）の位置にあることを確認してください。

○本機の周囲に人がいないことを確認してください。

○エンジンの周囲に可燃物がないことを確認してください。

○始動する場合、リコイルのロープを最大に引張って更にスペースがあることを確認してください。

3　回転部に注意!

エンジン回転中は、刈刃やVベルトなどの回転部分に手や足などを近づけないでください。巻き込まれる危険があります。点検・整備を行う場合は必ずエンジンを停止してから行ってください。

4　異常を感じた時の措置!

音や振動などで本機に異常を感じたときは、直ちに本機を安全な場所に止めてエンジンを停止させ、点検・修理などの適切な処置をとってください。

5　傾斜地の走行禁止!

傾斜地での草刈りは、草に滑って滑り落ちたり転倒する可能性があります。危険ですので傾斜地での草刈りには使用しないでください。

6　刈刃異物接触時の注意!

作業中本機や刈刃が障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するために点火プラグキャップをはずし損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをする恐れがあります。

7　刈った後の草や木の葉を蓄積注意!

本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。

8　運転中の刈刃高さ調整の注意!

エンジン運転中は、刈刃の高さの調整をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをする恐れがあります。

9　長時間連続作業時の注意!

過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。誤って操作されると思わぬ事故の原因になることがあります。マフラーの熱で草をこがしてしまうなど火災の危険性があるため、エンジンをかけたまま本機を草の上に放置しないでください。

作業が終わったら

1　終了時点検の実施を!

作業終了後に本機を清掃し次の作業の安全を確保するため、各部の点検を行い異常が認められた場合は、補修などの措置を講じてください。

2　本機の格納は冷えてから!

本機を格納するときは、エンジンやマフラーなどの高温部分が冷えてから燃えやすい物が近くにない場所に格納してください。乾いた草などの燃えやすい物の近くに駐車すると火災の原因となり危険です。

3　点検・整備のときは適正な工具の使用を!

点検・整備のときは、適正な工具を使用してください。間に合わせの工具で点検・整備をおこなうと、作業中のけがや整備不良による事故の危険性があります。

4　本機を輸送する際の注意!

車への積み降ろしは必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをする恐れがあります。また車で移動する際は燃料を抜いて本機をしっかりと固定してください。

5　長期保管前に燃料タンク、キャブレターの確認注意!

長期保管前には、燃料タンクの内の燃料とキャブレターの燃料を抜き取り本機を火気の無い場所に保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。

表示ラベルとその取扱い

1　表示ラベルの手入れと貼付位置

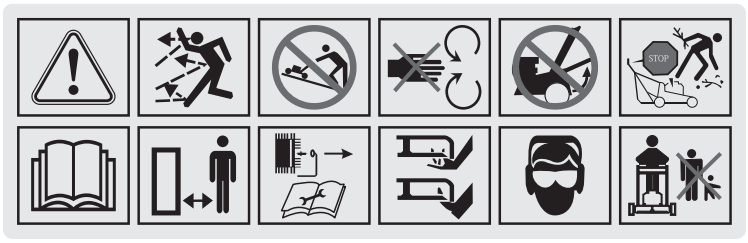
本機には安全についてのラベルが貼ってあります。良く読み理解した上で運転してください。

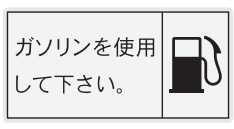
❶ ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。

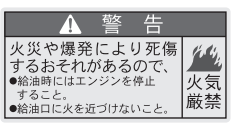
❷ 汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店にご注文いただき、所定の位置に貼ってください。

❸ ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

❹ 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後元の位置に貼ってください。







1 サービスと保証について

1 製品保証

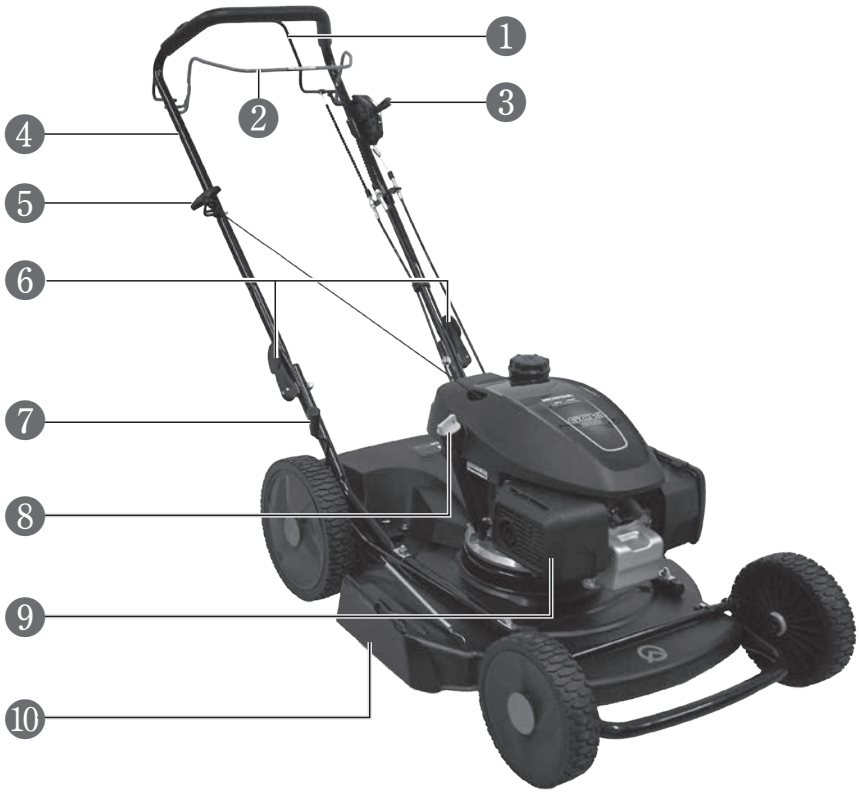
本製品には、保証書が添付してあります。詳細は、保証書をご覧ください。

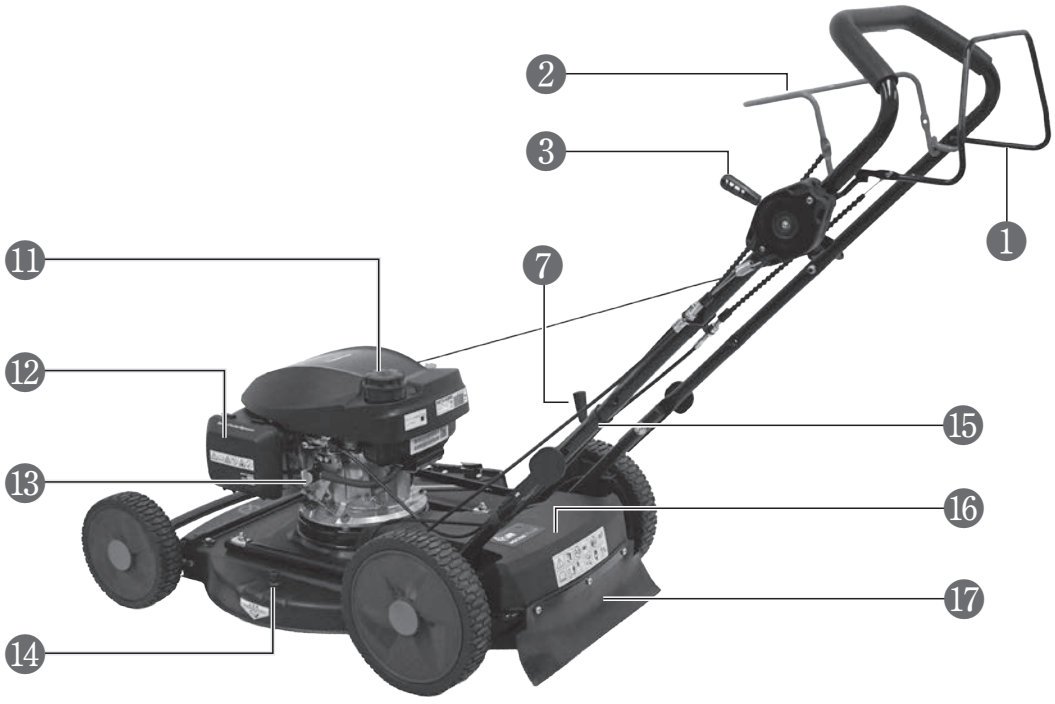
2 サービス（相談窓口）

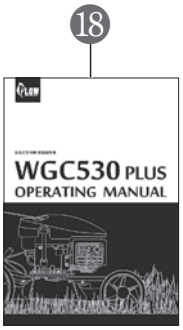
ご使用中の故障やご不明な点およびサービスについてのご用命は、ご購入された販売店または弊社営業所にお気軽にご相談ください。
その際、本機の型式と製造番号・搭載エンジンの型式・ご購入日などをご連絡ください。

2 各部の名称

1 名称







❶ 走行クラッチレバー　❷ 刈刃クラッチレバー　❸ 速度調整レバー
❹ ハンドルアーム　❺ 始動グリップ　❻ クリップ式ノブ　❼ 刈高調整レバー
❽ エンジンオイル給油口　❾ マフラー　❿ サイド排出口カバー　⓫ 燃料給油口
⓬ エアクリーナー　⓭ 燃料コック　⓮ ホース注入口　⓯ ワイヤー結束バンド
⓰ 走行ベルトカバー　⓱ 草飛散防止フラップ　⓲ 取扱説明書

3 組み立て方法

1 内容物の確認

No.	内　容	数量
1	本体	1
2	ワイヤー結束バンド　※ハンドルアームに取り付いています	2
3	クリップ式ノブ（ノブ×１、ワッシャ×１、ナイロンロックナット×１） ※ハンドルアームに取り付いています	2
4	取扱説明書	1
5	エンジンマニュアル【多言語】	1

・梱包部品のすべてを慎重に箱から取り出してください。
・すべての部品に不足や問題がないことを確認してください。
・梱包材を慎重に確認し、使用する前に廃棄はしないでください。
・不足している場合は、お手数ですが購入した販売店までご連絡ください。

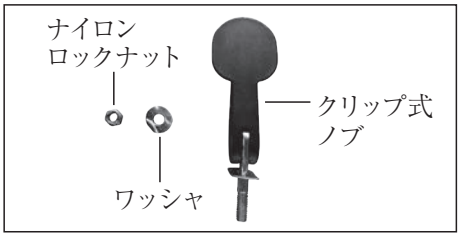
警告

本機を取り出す際は取付金具で手をけがをしないよう、作業手袋を着用して作業を行ってください。
不足物がある場合は、不足している部品が入手されるまで使用、組立はしないでください。

2 組み立て

警告

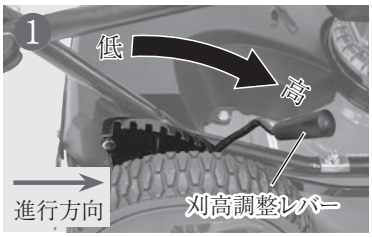
禁止	・組み立て時は、本体デッキ内の刈刃部に手や指をかけないでください。刈刃は鋭く大変危険です。 ・エンジンオイルと燃料を給油しないままエンジンをスタートしないでください。エンジンが焼き付きをおこして故障します。
指示	・組み立てや、運搬は2人以上で行ってください。 ・作業は自身や周囲の確認をしながら安全に行ってください。 ・平坦で固い地面の上で作業を行ってください。 ・組み立て作業時は、手袋、長袖シャツなどの保護に適した服装で行ってください。 ・ボルトやナットは緩んでいたら必ず増し締めを行ってください。怠ると重大な事故の原因となります。

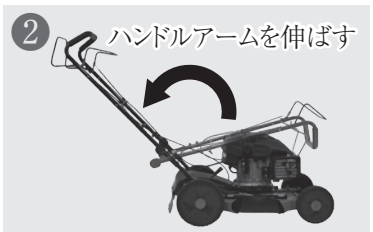


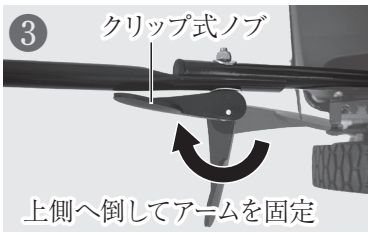
○同梱部品…クリップ式ノブ　２組

※クリップ式ノブは、すでに機体に取り付けられた状態で出荷されます。

■ハンドルの取付　取付けの際は安全に注意し、けがをしないようにお気をつけください。





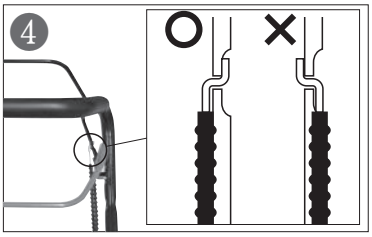


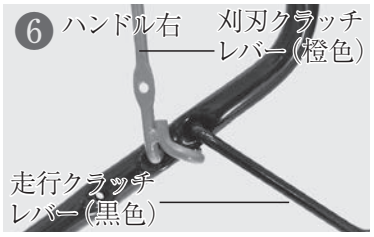
❶刈高調整レバーを進行方向へ移動させて、機体の高さを一番高い位置にします。

❷折りたたまれているハンドルアーム部分をゆっくりと持ち上げ、まっすぐに伸ばします。

❸左右のクリップ式ノブを上方向へ倒して固定します。ハンドルアームが機体にしっかり固定されているか確認してください。

※ハンドルアームの固定がゆるい場合は、13mm 工具でナイロンロックナットを締めて調節します。ナイロンロックナットを締めすぎるとノブの解除がしにくくなりますので、その場合はロックナットを緩めて調節してください。

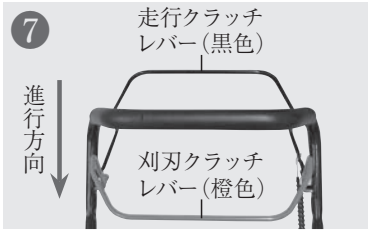


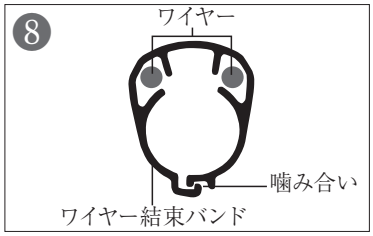


❹刈刃クラッチレバー（橙色）に上側のワイヤー、走行クラッチレバー（黒色）に下側のワイヤーを図のように取りついていることを確認します。

❺ワイヤーがレバーから外れてしまっている場合は写真のようにワイヤーをレバーに取り付けてください。

❻ハンドル右も写真と合わせてレバーが正確に取り付けられているか確認します。





❼写真のようにハンドルにレバーが取り付けてあることを確認します。

❽ハンドルに付いているワイヤー結束バンドを外し、刈刃ワイヤーと、走行ワイヤーを内側に通します。

❾ワイヤー結束バンドを元のハンドルに取付けます。この時、結束バンドの噛合い部分がしっかり噛合っているか確認してください。ワイヤー結束バンドで固定したのち、2 本のワイヤーが突っ張っていないか確認してください。

補　足　結束バンドを取り付ける際にハンドルアームにワイヤーが絡まないように注意してください。不自然な張りがあると正常に機能しなくなります。速度調整ワイヤーは結束バンドで固定しません。

❿始動グリップをリコイルフックに引っかけます。

①刈刃クラッチレバー（橙色）を握ります。

※刈刃クラッチレバーを握らないとリコイルロープのロックが解除されず始動グリップが引き出せません。

②始動グリップをリコイルフックのところまでゆっくり引きます。

③引き出した始動グリップをリコイルフックに通し引っかけます。

④刈刃クラッチレバーを離します。

4 操作の前に

1 作業前の点検

使用前に自分と周囲の安全をしっかりと確保しましょう。事前のチェックを行う事でけがの危険性が大幅に軽減されます。このマニュアルをよく読み停止方法や操作方法を習得してください。

■本体の点検

安全に本体を末永くご使用頂くためには事前のチェックが非常に重要です。使用前に修理箇所や問題が見つかった場合はすぐに販売店に修理を依頼してください。

⚠ 警　告　この草刈機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。
最悪の場合、使用者のけがや事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前に事前チェックを行い問題の改善を行ってください。

■周囲のチェック

○安全性を確保するため操作前に刈り取り予定の地面の状況を確認してください。
○石や棒・釘やワイヤー等で刈刃が破損したり外れる可能性があります。障害物は事前に取り除いておいてください。
○使用時は周囲を確認し人や動物やペット、特に子供は近付けさせないよう注意を払ってください。
○草の状態に合わせてスピードを調整し刈り取りを行ってください。

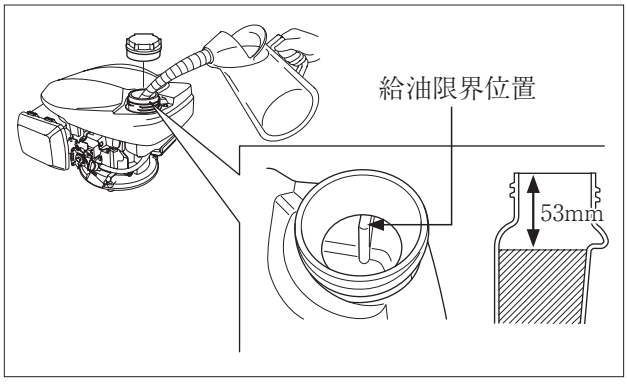
2 燃料の点検

○燃料は購入してから1ヶ月以内の新鮮なレギュラーガソリンをご使用ください。
○古いガソリンや混合燃料は決して使用しないでください。
○タンク内は清潔に保ち水が入らないようにしてください。
○指定のガソリン以外のものを使用した場合のエンジントラブル・損傷や性能の低下はメーカー保証の対象外となります。
○ガソリンは塗装やプラスチック面に損傷を与える可能性があるのでこぼれた場合はすぐに拭き取って下さい。こぼれた燃料による損傷はメーカー保証の対象になりません。

⚠ 危　険　この芝刈機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。
最悪の場合、使用者の怪我や事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前に事前チェックを行い問題の改善を行って下さい。

■点検

燃料給油キャップを外し、燃料があるか点検します。
少ない場合は補給してください。



■補給

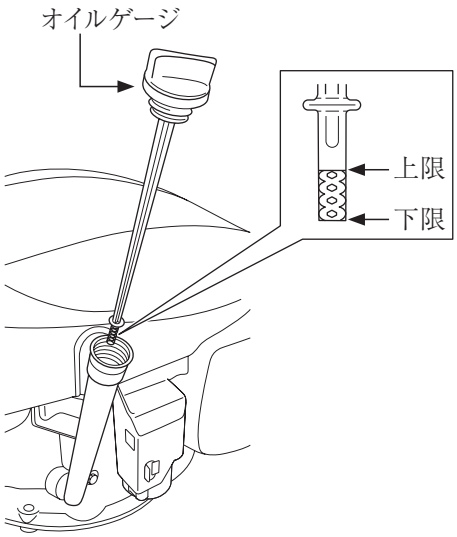
［使用燃料］無鉛レギュラーガソリン
燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないよう補給します。
給油後、燃料給油キャップを確実に締め付けてください。

3 エンジンオイルの点検

※未組立品をご購入の場合はエンジンオイルが入っていない状態で出荷されます。

■点検

エンジンオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルを拭き取ります。キャップを締め込まずに、キャップのネジ部分が給油口にあたった位置で抜き取り、オイルゲージに付着したオイルでオイル量を確認してください。油面が下限を下回っている時は、上限までオイルを補給して下さい。



■補給

エンジンオイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限以内まで補給します。オイル充填後はオイルゲージでオイル量が適量になっているか必ずご確認ください。

［推奨オイル］

API 分類SJ級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

⚠ 警　告　エンジンオイルの補充は、オイル量が適正でないとエンジンが焼き付きをおこして故障します。エンジン焼き付きによる故障は、保証対象外ですのでお気をつけください。

補　足　過度にエンジンオイルを充填すると余分なオイルがエアクリーナーから出てくる事があります。過充填の兆候としてマフラーから白または青の煙が出てきます。

4 エアクリーナーの点検

エアクリーナーがゴミやホコリで目詰まりをしていないかチェックをします。

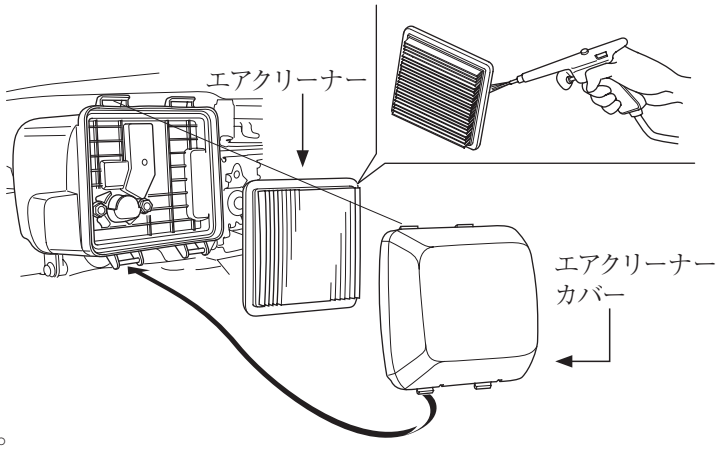
重　要　エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付が悪いと振動でカバーが外れることがあります。
エアクリーナーが詰まっていたり、装着しないまま使用しますとエンジンの寿命が著しく早まる原因になります。

■点検

①エアクリーナーカバーを外します。

②エアクリーナーの汚れを点検します。

③汚れがひどい場合は、エアクリーナーの清掃または交換を行ってください。



■交換

①古いエアクリーナーを取り外し、周りの汚れを取り除いてください。

②新しいエアクリーナーを装着してください。
（※新しいエアクリーナーをお求めの際は販売店までご連絡ください。）

補　足　エアクリーナーカバーの取り付けは確実に行ってください。取り付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。エアクリーナーが詰まっていたり、装着しないまま使用しますとエンジンの寿命が著しく早まる原因になります。

乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早いので頻繁に点検してください。

警　告　作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招く恐れがあります。
交換刃のご購入・お求めは販売店にご相談ください。

■点検

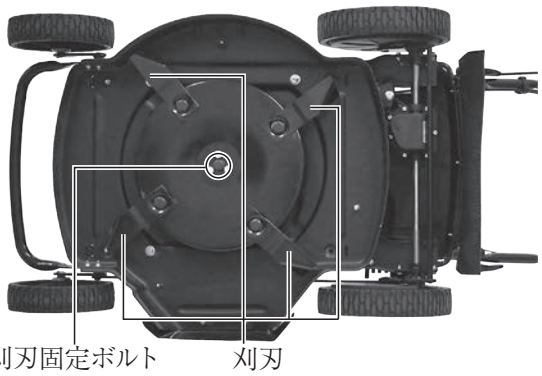
❶エアクリーナー側（操作ハンドル側から見て左側）を上に向けるように本体を傾けます。

※エアクリーナ側を下に向け傾けると吸気側にエンジンオイルが流入し故障します。

❷刈刃とボルトなどに摩耗や変形や亀裂がないか確認します。

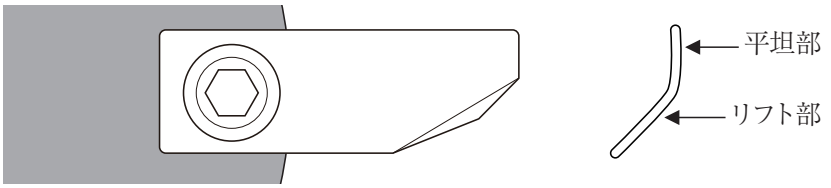
❸併せてデッキへの亀裂等がないか確認します。

エアクリーナー側を上にする



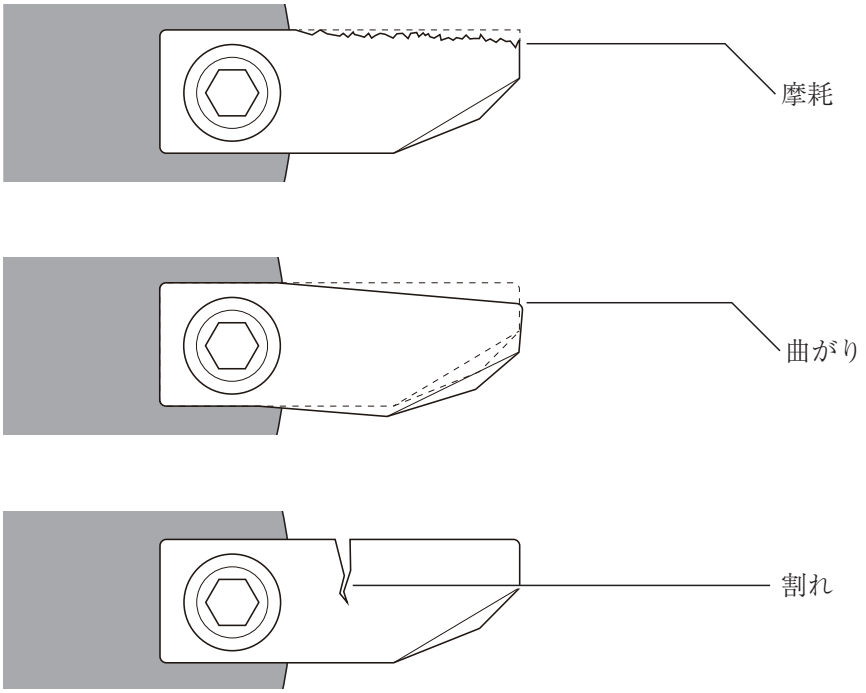
刈刃交換の詳しい説明については、
20 ページ「刈刃の交換」をご参照ください。

新品



要交換

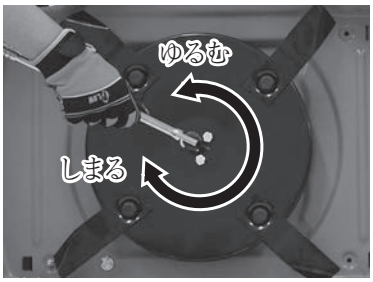
下図のような状態の場合は刈刃を交換してください。交換刃については販売店にご相談ください。刈刃交換の詳しい説明については、20 ページ「刈刃の交換」をご参照ください。



本体各部のボルトやナットにゆるみがないか点検します。

⚠ 注　意　刈刃ディスク固定ボルトを点検するときは、エンジンを停止し点火プラグキャップを外し、厚手の手袋を装着して作業にあたってください。

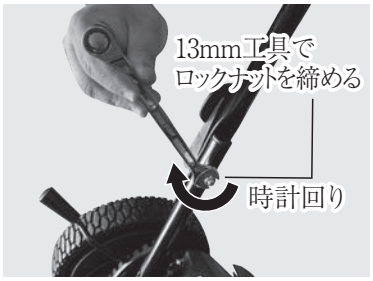
■点検



●刈刃にガタつきがないか、刈刃ディスクの固定ボルトの締付けは完全であるかチェックします。刈刃にガタつきがあったり、刈刃ディスク固定ボルトの締付が不十分な場合は、トルクレンチ等で増し締めをします。

［締付推奨トルク］

49 ～ 59N-m



●ハンドルのクリップ式ノブにゆるみがないかチェックします。ゆるみがあった場合は 13mm 工具でナイロンロックナットを締めて、しっかりとハンドルが固定されているか点検をしてください。

※ナイロンロックナットを締めすぎるとノブの解除がしにくくなりますので、その場合はロックナットを緩めて調節してください。

5 注意事項

1 安全な草刈り作業の実施

この取扱説明書および注意喚起に従う事で、ほとんどの障害や物的損害を防ぐ事ができます。

■密閉空間での使用禁止

安全のため倉庫やガレージなど密閉された場所でエンジンの始動または操作をしないでください。

⚠ 危　険　排気には有毒な一酸化炭素が含まれており、密閉空間では危険レベルまで上昇する事があります。
一酸化炭素を吸うと、意識不明や死亡の原因になる事があります。密閉された場所では決して運転しないでください。

■運転中は刈刃に近づかない

草刈機の刈刃は非常に強力で指・手・つま先・足等を切断するパワーがあります。刈高の調整や刈刃まわりで作業する場合は必ずエンジンを停止させてください。

⚠ 危　険　刈刃は鋭く、高速で回転します。回転刃はあなたを切断する事ができます。エンジン回転中は絶対に刈刃に近づかないで下さい。
また、メンテナンス時は必ずエンジンを停止させてください。

■草面の確認

草刈機は非常に強力な力で岩や石などを飛散させる事があります。危険を回避するために、草刈りの作業前には全ての棒・岩・石・配線など慎重に確認し、全て取り除いてください。
また、砂利の場所ではエンジンの始動を行わないでください。

補　足　刈刃に大きな損傷を与えると最悪の場合、エンジンが故障する可能性があり、メーカー保証の対象外となります。

■本体の防護部品を適切に

デッキは石などがまわりの人やエンジンなどにぶつからないよう設計されています。エンジン作動前にデッキなどの防護部品を確認してください。

■安全に燃料補給する

ガソリンは可燃性があり爆発する可能性があります。補給時は野外の換気の良い場所で行ってください。
またガソリンは認可された携行缶で保管し、炎や火花を避けてください。

■保護具を着用する

長ズボンや目の保護具や安全靴を着用するとけがなどの危険性を減らす事ができます。

■使用しない時はエンジンを停止する

草刈機から離れる場合は常に刈刃クラッチを離しエンジンを停止させてください。

■斜面・荒地を避ける

本機は斜面では使用しないでください。斜面での走行は草が湿っていたり濡れていると滑り落ちたり転倒する可能性があり大変危険です。また、エンジンを 20 度以上傾斜させて使用するとエンジンオイルの片寄りによりエンジンが焼き付く恐れがあります。斜面での使用による故障や不良についてはメーカー保証対象外となりますのでご注意ください。

■本体に衝撃を与えない

動かなくなった場合は足で本体を蹴ったり押したりしないでください。操作は全てハンドルバーで行ってください。

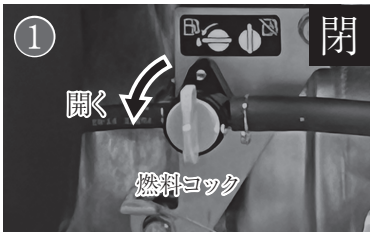
■障害物を取り除く

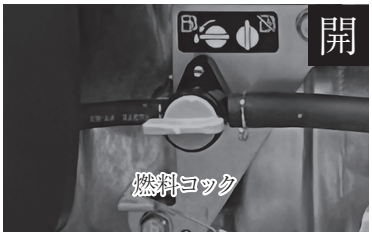
スプリンクラーヘッドや樹木の根元などの障害物には十分ご注意ください。刈刃が接触し大きな衝撃が発生したらエンジンを停止しすぐにスパークプラグキャップを外し本体または刈刃に損傷がないか確認します。衝突すると刈刃が損傷したりデッキなどの部品が損傷する恐れがあります。

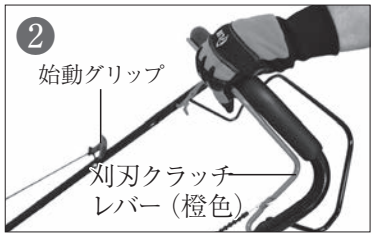
警　告　砂利、小石、造園資材等は刈刃に接触することがあり重大な人身傷害や事故を引き起こす可能性があります。危険を感じた場合は刈刃クラッチレバーを離しエンジンを停止してください。
偶発的な衝突による損傷はメーカー保証の対象外となります。

6 操作方法

1 エンジン始動







❶燃料コック写真のように回し【開】の状態にします。

❷刈刃クラッチを握った状態で始動グリップを引きます。グリップを引く際は後方に十分注意してください。戻す時は手を離さずゆっくり戻してください。途中で離してしまうと、始動グリップが急激に巻き戻るためグリップの破損やケガをする危険があります。
※刈刃クラッチを握らない状態ではロックがかかり、始動グリップが引けません。

警　告 本機はエンジン動作中は常に刈刃が回転しています。周囲には十分ご注意ください。

2 停止

刈刃クラッチレバーから手を離すとエンジンが停止し、刈刃の回転も停止します。

3 刈高の調整

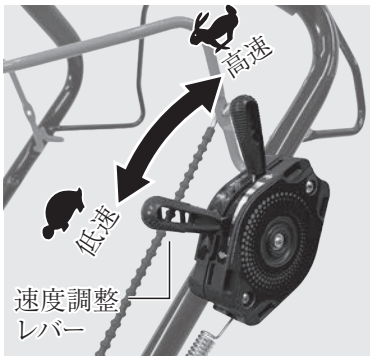
刈高の調整は 20 ～ 70 mm までの8段階調整が可能です。高さの目安は草や土壌の条件によって異なります。切断面の高さを調整する時は必ずエンジンを停止させてください。高さの目安がわからない場合は必ず一番高い設定から段階的に下げ刈高を設定してください。

重　要 長い草の状態から一度に短く刈ろうとすると、刈刃に大きな抵抗がかかり、負荷でエンジンが停止する場合があります。草が長く伸びている場合は 2、3 回に分けて段切りしてください。

4 草刈りと速度調整

刈刃クラッチレバーを握ったまま走行クラッチレバーを握る事で自走します。

重　要 走行する際は走行クラッチレバーは必ずしっかりと握ってください。走行クラッチレバーを中途半端な握りの状態で使用すると故障の原因となります。



■速度調整
速度調整レバーは無段階で選択できます。
ゆっくり作業されたい場合は、速度調整レバーを【低速 🐢】へ、早く走行したい場合は、【高速 🐇】へ調整レバーを動かして操作してください。走行クラッチレバーは握ったまま、速度調整レバーの操作ができます。

◎走行クラッチレバーを放して、手押し（任意の歩行速度）での作業も可能です。

5 サイド排出

サイド排出は、刈った草を集草せずに右横に排出しながら草刈り作業を行います。
草を刈り始めると、サイド排出口カバーは自動的に開き、草が排出されます。

6 デッキ内清掃

ホース注水口に水道ホースを接続し、エンジンを始動しブレードを回転させることで、ブレードとデッキ内部を洗浄することができます。
草の刈り取り後の洗浄メンテナンスとしてご使用ください。

⚠ **警　告**

本機の外装は水洗いしないでください。ベアリングや接続部に水気が侵入し故障の原因となります。水洗いはデッキ給水口からホースをつなげてデッキ内のみの清掃し、水洗い後はよく乾燥させてから収納してください。

7 メンテナンス

1 重要性

適切なメンテナンスは事故や故障などのトラブルを防ぎ、また大気汚染の削減に役立ちます。

警 告 不適切なメンテナンスや不具合があるまま使用した場合、深刻な誤作動を起こす可能性があります。
誤作動の中には使用者を傷つけたり、最悪の場合、命を落とすものがあります。取扱説明書の修理や点検と推奨事項とスケジュールを参照ください。

次のページには草刈機の適切な維持管理を支援するためのメンテナンススケジュール、日常点検手順や基本的な工具を使用した簡単なメンテナンス手順が記載されています。
特別な工具を必要とする困難な修理は専門の整備士にご依頼ください。メンテナンススケジュールは通常使用に適用されます。高負荷、高温、浸水、埃のような厳しい条件下で草刈機を使用される場合は修理店へご相談ください。

■安全のために

重要な安全対策を掲載しています。特定の修理を実行するかどうかは使用者が決定できます。

警 告 不適切なメンテナンスや不具合があるまま使用した場合、深刻な誤作動を起こす可能性があります。
誤作動の中には使用者を傷つけたり、最悪の場合、命を落とすものがあります。取扱説明書の修理や点検と推奨事項とスケジュールを参照ください。

■安全上の注意

メンテナンスや修理を開始する前にエンジンが停止していることを確認してください。これにより以下の潜在的な危険が回避されます。

❶エンジン排気によって一酸化炭素中毒の可能性があります。常に換気が十分であることを確認してください。

❷エンジンが高熱をもち火傷する可能性があります。触れる前に時間をおき冷やしてください。

❸刈刃などの可動部に損傷がある場合、未修理のままエンジンを始動させないでください。

■ガソリンの取扱い

火災や爆発を避けるため、ガソリンを使用する際は細心の注意を払ってください。部品を清掃する場合はガソリン以外の不燃性溶剤のみを使用してください。また、たばこ、火花、炎を燃料関係の部品から離してください。

メンテナンス方法は
一部動画でもご覧いただけます。

YouTube JP
https://plow-power.com/support/maintenance/support-video/

2 定期点検

お買い上げいただいた草刈機を安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

点検項目	点検時期(3)	作業前 点　検	1ヶ月目 または 初回5時間 運転目	2ヶ月目 または 25時間 運転毎	3ヶ月目 または 50時間 運転目	6ヶ月目 または 100時間 運転目	1年毎 または 200時間 運転目
エンジンオイル	点検	○					
	交換		○		○		
エアクリーナー	点検	○					
	清掃			○ (1)			
	交換						○
刈刃ボルトの締付け	点検	○					
刈刃の状態	点検	○					
本機周りの点検・各部の清掃		○					
レバーの作動	点検	○					
エンジンの作動	点検	○					
点火プラグ	点検・調整					○	
	交換						○
走行ベルト	点検・調整	○					
	交換						○
フライホイールブレーキ	点検					○ (2)	
	点検・調整						○ (2)
燃焼室	清掃	250時間運転毎 (2) (4)					
燃料タンク・フィルター	清掃						○ (2)
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）(2)					

(1) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

(2) 適切な工具と整備技術を必要とするので、お買い上げ販売店またはサービス店で実施してください。

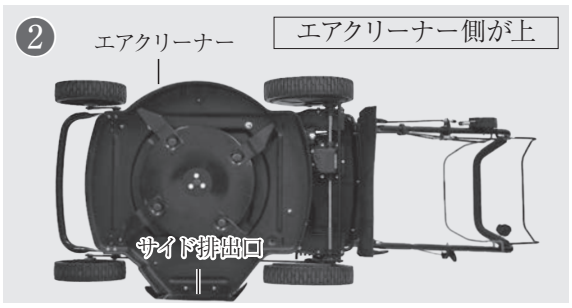
(3) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

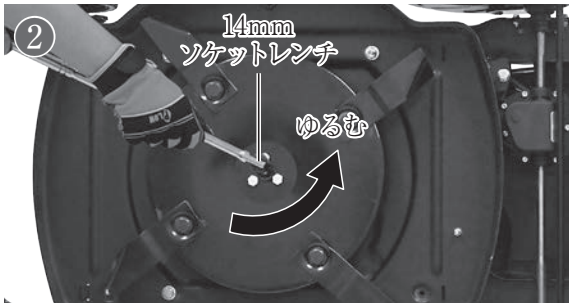
(4) 表示時間を経過後はすみやかに実施してください。

(5) 点検指定時期以前でも異常を感じた場合は点検を実施してください。

3 各種メンテナンス

■刈刃の交換

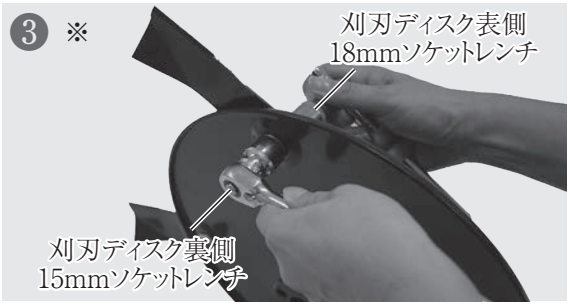


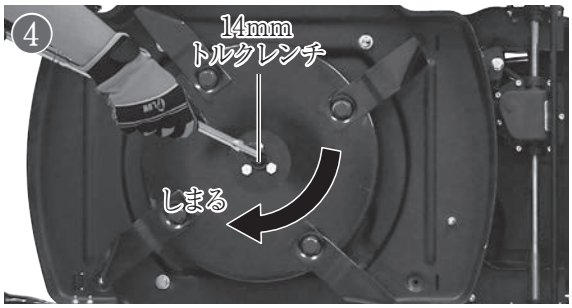


❶エアクリーナー側が上になる様に本体を倒します。（サイド排出口が下になります）刈刃の周りに土や草が絡みついているようならきれいに清掃してください。

❷刈刃ディスク中央の固定ボルトを14mmのソケットレンチで取り外します。ボルトを取り外す際に刈刃ディスクが回転しないように片手で固定しながら取り外してください。

※刈刃ディスクの固定ボルトは通常ネジです。
［時計回り：締まる］［反時計回り：ゆるむ］





❸刈刃ディスクを外したあと、フリー刈刃の交換を行います。フリー刈刃の固定ボルトは、表側 18mm のソケットレンチ、裏側の固定ボルトは 15mm のソケットレンチを使用して取り外してください。その後、新しいフリー刈刃（替刃）を刈刃ディスクに付け替えます。ワッシャーを入れて固定ボルトを仮止めし、トルクレンチで固定ボルトを増し締めしてください。

［推奨トルク］49 ～ 59N-m　（必ずトルクレンチを使用してください）

※写真はわかりやすくするため、手袋をはずしています。実際の作業の際は、必ず作業手袋を着用して行ってください。

❹フリー刈刃を交換した刈刃ディスクを機体へ取り付け、中央の固定ボルトを仮止めします。14mm のトルクレンチで固定ボルトを増し締めしてください。

［推奨トルク］49 ～ 59N-m　（必ずトルクレンチを使用してください）

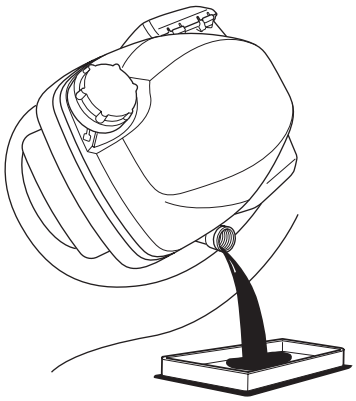
トルクレンチがない場合は専門の修理店へご依頼ください。

警　告　刈刃ディスクの固定ボルトや、フリー刈刃の固定ボルトが既定のトルクで締められていない場合、刈刃が外れ、人を死傷させる可能性があります。ボルトがしっかり締められている事を確認してください。

補　足　刈刃ディスク（４枚フリー刃取付済み）は交換用パーツとして販売しています。お買い上げの販売店、またはプラウカスタマーセンターへお問い合わせください。
［草刈／荒れ地用替刃　フリー 4 枚刃］B1-02-098-001A

■エンジンオイルの交換

エンジンオイルの交換は、最初の使用から1ヶ月または作業5時間後に交換を行ってください。その後は6ヶ月ごとまたは作業50時間ごとに交換を行ってください。高負荷や温度の高い野外で使用する場合オイルを頻繁に交換する必要があります。また、必ず推奨オイルを使用してください。
オイル交換はオイルが温かいうちに排出するときれいに素早く交換する事ができます。
横転時にデッキや車輪の側面を傷つけないようにするために、段ボールや布を地面にひいておくと効果的です。市販のオイルエキストラクターを使用すると簡単に交換することができます。



❶エンジンを掛け1分ほど放置しエンジンオイルを温めます。こうすることでオイルがやわらかくなり、排出しやすくなります。

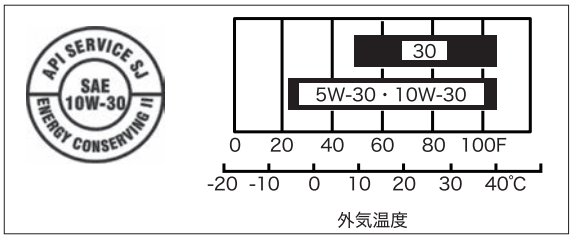
❷廃オイルを受ける容器を本体の横に置き、本体をエアクリーナー側が上になるように傾けオイルを排出します。排出したオイルは各自治体で決められた所定の方法で廃棄を行ってください。

❸推奨オイル【 SJ 10W-30 】を約 0.4 L注入してください。オイルを入れ数分経ってからオイルゲージを使いオイルの量の確認を行ってください。

(※オイル量の確認方法は「エンジンオイルの点検」（12 ページ）をご参照ください。)

補　足　推奨オイル以外のオイルを使用するとエンジンの寿命が短くなり最悪壊れる場合があります。また2ストロークオイルを使用するとエンジンが損傷するので絶対に使用しないでください。

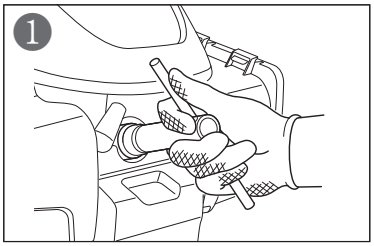
■推奨エンジンオイル

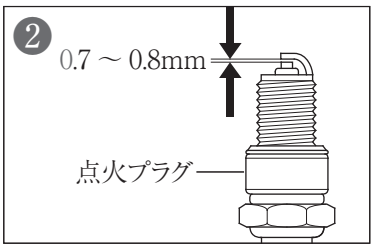


オイルは性能と耐用年数に影響を与えます。
メンテナンススケジュールに従ってオイルを交換してください。
［推奨オイル］SAE 10W-30〔SJ級以上を推奨〕
※寒冷地：SAE　5 W -30

■スパークプラグの清掃と交換

注　意　エンジン停止直後は、マフラやマフラカバー、配管、油圧機器、エンジン本体およびエンジンオイルが高温になっており、手や肌が触れるとヤケドの危険があります。プラグの点検・交換は安全な温度に下がった状態で行ってください。





エンジンの点火が正常に始動しない場合、もしくは使用 100 時間毎にプラグの清掃を行ってください。プラグの汚れがひどい場合は新しものと交換してください。

❶エンジンの前方にあるプラグキャップを強く引くと点火プラグがあります。点火プラグをプラグレンチ等で取り外してください。

❷点火プラグの先端の汚れを取り除き、紙ヤスリで磨いて、スキマ調整をします。間隔は 0.7 ～ 0.8mm 前後になるようにしてください。

プラグ型式	BPR5ES
プラグレンチサイズ	20.8（21）mm
清掃時期	6 ヶ月 または 100 時間毎

■エアクリーナーの清掃方法

エアクリーナーの清掃･交換方法につきましては「エンジンオイルの点検」（12 ページ）をご参照ください。

■長期間使用しない時の保管方法

長期間使用しない場合、または作業を終え長期間格納する場合は次のメンテナンスを行ってください。

● 30 日以上使用しないときは、燃料を完全に抜くか事前にメーカー指定の燃料劣化防止剤を燃料に添加してください。古くなった燃料は故障の原因となります。

重　要　ガソリンは古くなると粘性の物質が発生し燃料経路に付着し詰まらせます。燃料経路が詰まると、エンジン回転の不調・ハンチング・始動不良など様々な故障の原因になります。

■ガソリンを抜いて保管する場合

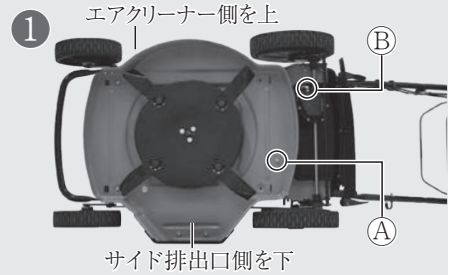
❶エンジンを停止して、燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動ポンプは火花などの発生により火災の原因になりますので使用しないでください。

❷燃料タンクからガソリンを抜き終わりましたら燃料給油キャップを締め、エンジンを始動して、自然にガス欠で停止するまでエンジンを回し燃料を完全に使い切ってください。

❸エンジンが停止したら念のため数回始動手順を繰り返し、エンジンが掛からないことを確認して下さい。万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから抜き保管してください。

■走行ベルトの交換

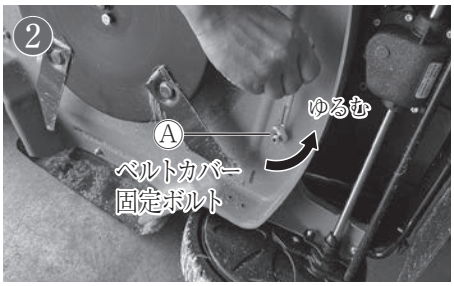
1 年毎または作業 200 時間ごとに走行ベルトの交換をします。点検時に走行ベルトの劣化、摩耗、ヒビ割れ等がある場合は新品と交換が必要です。その場合は下記の通りに交換を行ってください。



❶エアクリーナー側が上になる様に本体を倒します。

（サイド排出口側が下になります）

※サイド排出口の扉は畳まれている状態で本体を横に倒してください。無理やり本体を倒すとサイド排出口の扉が変形する可能性があるのでご注意ください。

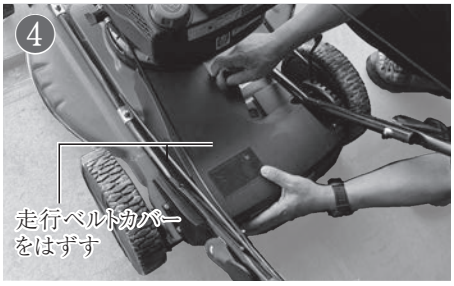


❷写真のⒶの位置にあるベルトカバー固定ボルトを10mmの工具を使用して取り外します。

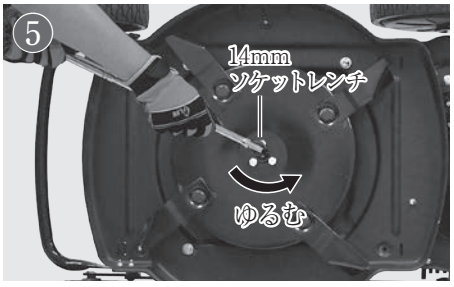
補　足　Ⓐの位置にあるベルトカバー固定ボルトは反対面にある固定ボルト（④画像参照）を10mm 工具を使用して抑えながらナットを緩めると取り外しがしやすいです。

❸倒した機体を起こし、機体背面の草飛散防止フラップを取り外します。固定しているトルクスねじ（３箇所）は、トルクスレンチを使用して外してください。

［トルクスレンチサイズ：T30 ］

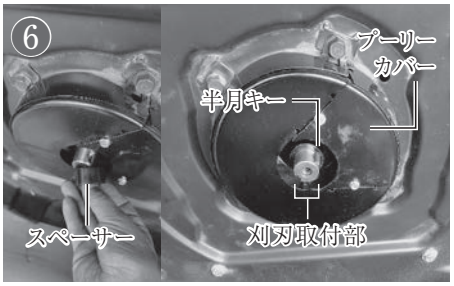


❹走行ベルトカバーを上へ引き上げて外します。走行ベルトが見えるようになります。



❺再度、①と同じようにエアクリーナーが上になる様に機体を倒し、刈刃ディスクを 14mm のソケットレンチを使用して外します。

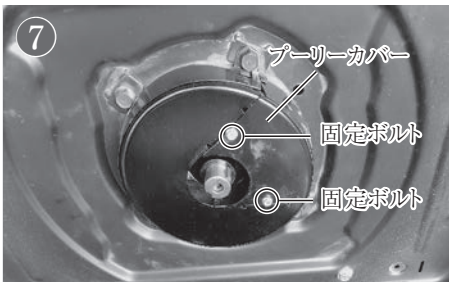
（20 ページ「刈刃の交換」を参照してください）



❻刈刃ディスクとスペーサーを取り外すと、プーリーカバーと刈刃取付部が見えるようになります。

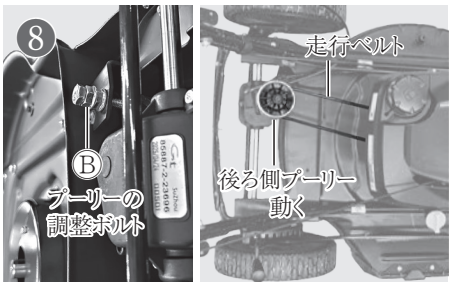
（刈刃取付部に取り付けてある半月キーが外れないように注意してください）

補　足　半月キーとは、刈刃取付部の軸には 2 箇所のキー溝があり、そのうち 1 箇所の半月溝側に取り付いている部品のことです。



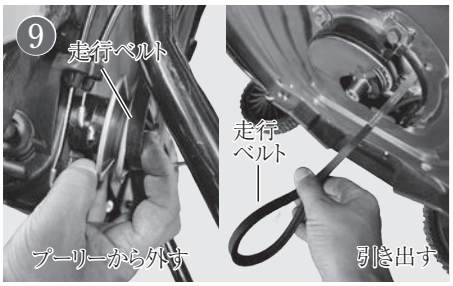
❼プーリーカバーにある2箇所の固定ボルトを 8mm の工具を使って外します。プーリーカバーが部分的に取り外せるようになります。

外した開口部からは、⑩の写真のように前側プーリーと走行ベルトが見えるようになります。

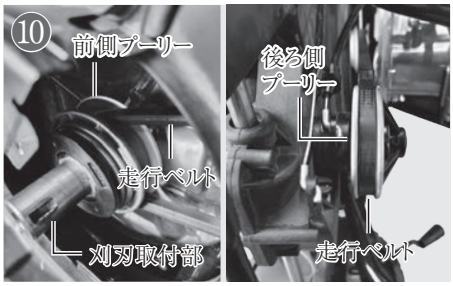


❽プーリーの調整ボルト（Ⓑ）を13mm 工具で緩めると、後ろ側のプーリーが動いて走行ベルトが外れる様になります。

※プーリーの調整ボルトは完全に取り外すのではなく、後ろ側のプーリーからベルトが外れる位まで動くように緩めてください。

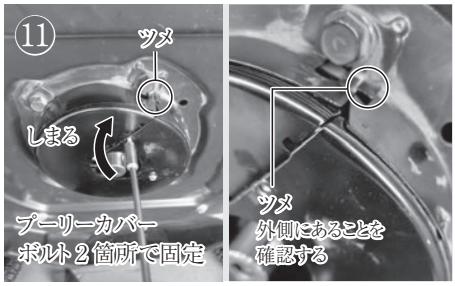


❾走行ベルトを後ろ側プーリーから前側プーリーの順に外し、プーリーカバーの開口部から、取り外した走行ベルトを引き出します。

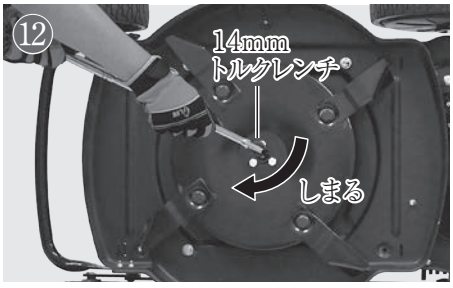


❿新しい走行ベルトをプーリーカバーの開口部へ差し入れます。前側プーリーへ走行ベルトをかけ、後ろ側プーリーの順に取り付けていきます。その後、⑧で緩めたプーリーの調整ボルト（Ⓑ）を締めてベルトを固定します。後ろ側プーリーがベルトと水平になるよう調節しながらボルトを締めてください。

※プーリーの調整ボルト（Ⓑ）は締めすぎると、プーリーが反対側へ反っていくので注意してください。



⓫ベルトの交換が完了したら、外したプーリーカバー（部分）を取り付けます。固定側のプーリーカバーの『ツメ』が、再度取り付ける側のプーリーカバー（部分）の外側にあることを確認して、2箇所のボルト（8mm）を取り付けて元の状態に戻します。



⓬刈刃取付部の軸についている金具の半月キー位置に合わせて、スペーサー、刈刃ディスクの順に通し、取り付けます。14mm のソケットレンチで固定ボルトを仮止めし、トルクレンチで固定ボルトを増し締めしてください。

［推奨トルク］ 49 ～ 59N-m

（20 ページ「刈刃の交換」を参照してください）

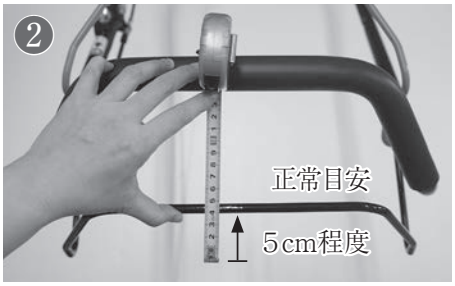
⓭終了後は、機体へ走行ベルトカバーと草飛散防止フラップを、外した時と逆の順番通りに取り付けます。ボルト・トルクスねじを締めて元通りにします。

補　足　交換用の走行ベルトは、お買い上げの販売店、またはプラウカスタマーセンターへお問い合わせください。

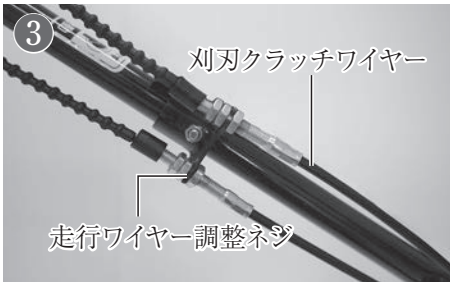
4 走行ワイヤーの調整

走行クラッチレバーを握らないのにエンジンが始動と共に前進してしまう、クラッチレバーを握っても走行のする力が弱い（後輪を持ち上げると回転するが地面につくと前進しない）などの場合、ワイヤーの固定位置の調整が必要な場合があります。その場合は下記の通りに調整を行ってください。

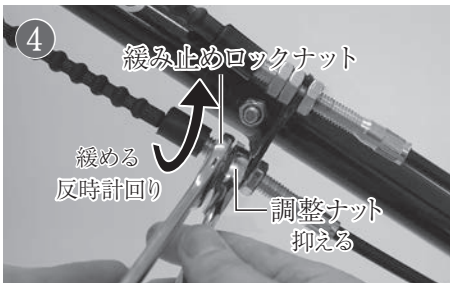
❶走行クラッチレバーの解放状態の幅をはかります。ハンドルを握らない状態でタイヤがロックされていないことを確認してください。



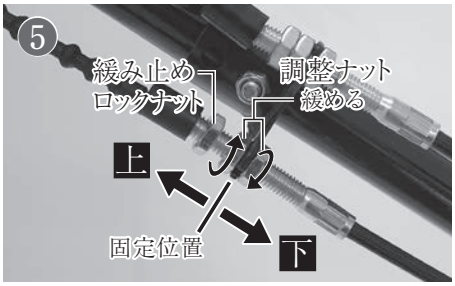
❷機体をゆっくり後ろへ移動させながら、走行クラッチレバーを 5cm 程度握りこむと後輪がロックされる状態が正常な遊び幅になります。それより遊びが多い場合、少ない場合はワイヤーを調整します。



❸ワイヤーを調整するには始動スイッチ付近の走行ワイヤー調整ネジで長さを調整します。



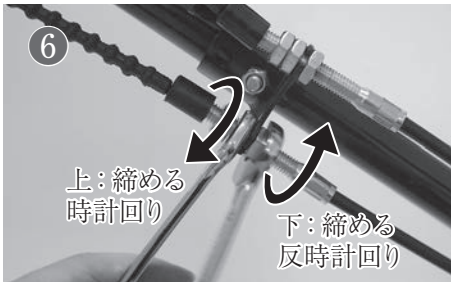
❹緩み止めロックナットを緩めます。13mmレンチを2本使って、緩み止めロックナットの下にある調整ナットを抑えながら、上の緩み止めロックナットを緩めると緩めやすいです。



❺次に調整ナットを緩めてワイヤー位置を調整します。上下の調整ナットを緩めてから、以下の通りに固定位置を移動し、調整してください。

● 遊びが多い（走行レバーを握っても走行力がない）場合
上の調整ナット側へ固定位置を移動［ワイヤーを張る］

● 遊びが少ない（エンジンをかけると走り出してしまう、等）場合
下の調整ナット側へ固定位置を移動［ワイヤーを緩める］



❻調整位置が決まったら調整ナット両側から（上の調整ナットは時計回り、下の調整ナットは反時計回り）締めて固定します。

❼緩み止めロックナットを調整ナットのところまで締めて調整は完了です。

ワイヤー調整方法は
動画でもご覧
いただけます。

YouTube JP

https://youtu.be/jsozbsZW5Dc?si=WBQRH4j1Y3G1buMU

8 仕様

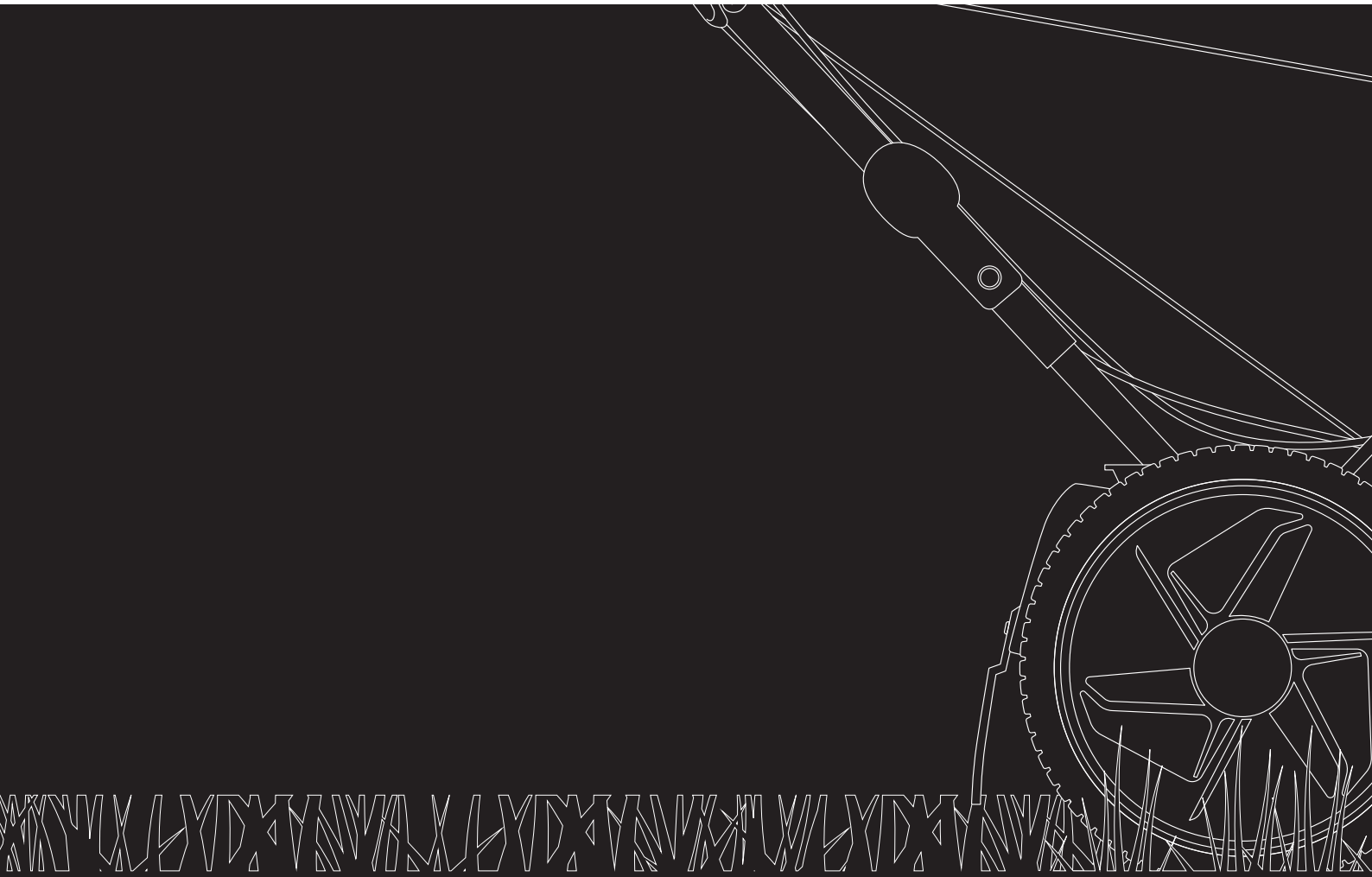
1 仕様表

	型式	WGC530 PLUS
寸法	全長	1,500 mm
	全高	970 mm
	全幅	610 mm
	重量	34.0 kg
エンジン	エンジン名称	HONDA GCVx200
	排気量	201 cc
	エンジンオイル	0.4 L
	燃料タンク容量	0.9 L
	エンジンタイプ	空冷単気筒　4 サイクルエンジン
	燃料	無鉛レギュラーガソリン
	点火プラグ	NGK［ BPR5ES ］
芝刈部	走行方式	自走式
	走行スピード	2.3 ～ 3.9 km/h（無段階変速）
	刈幅	530 mm
	刈高	8 段階（ 20 mm ～ 70 mm ）
	刈刃枚数	フリー刃：4 枚
	排出方法	サイド排出

パーツリストについては、プラウ ホームページでのご案内となります。

左の QR コードまたは下記 URL からアクセスしてください。

「部品図・パーツリスト」ページ URL

bit.ly/plowparts

発売元 株式会社ホンダウォーク
〒943-0173 新潟県上越市富岡256-2
お問い合わせ先 ☎025-530-7025
https://plow-power.com/